

大じょうぶ？ありがとう

奈良県 生駒東小学校 4年 宇田 一貴

ぼくは、夏休みに入る前にサッカーの試合で、相手の頭が鼻に当たり、鼻をこっせつしました。こっせつしたことで、いろいろな人にやさしいことをしてもらいました。

こっせつを治すには、ほねを元の位置にもどす手じゅつをしないといけないので、そのために一日だけ入院しました。入院する前に、サッカーのコーチにしばらく休むことを言いに行くと、友達や友達のお母さんから、

「大じょうぶ？早く治るといいね。」

と、やさしい言葉をかけてもらったのでうれしかったです。

そして、入院したときに、初めての手じゅつで何もかもが心配で不安なときに、かんごしさんがやさしい言葉をかけてくれました。その言葉で、ぼくは少し不安がなくなりました。

手じゅつが終わり、部屋にもどると、家族のみんなも、

「よくがんばったね。」

と言ってくれて、ほっとしました。みんなのやさしさにぼくは、うれしくてはげまされました。

こっせつがまだ治っていないので、サッカーの練習をしたり、試合には出られないけど、じゅんぴなどのお手伝いはできるので、合宿に参加することにしました。ぼくは、コーチに教えてもらいながら、みんなのお昼のおべんとうが入った箱を休けい室に運んだり、エアコンをつけて部屋をすずしくしました。

そして、みんなが食べ終わると、その箱を二つ、車まで運びました。ほかにも、ミニコーンをコーチのところまで持っていったりしました。ミニコーンを使い終わって、ぼくが回しゅうしていたら、みんなが、

「ありがとう。」

と言ってくれました。みんなだけじゃなくコーチも言ってくれて、うれしかったです。そして、友達が頭がいたいと言っていたので、大じょうぶかなと思って、しばらくいっしょにいました。しばらくすると治ったのでよかったです。

こっせつをして、好きなサッカーができなくてくやしかったけど、みんなが、

「大じょうぶ？」

と声をかけてくれて、ちょっとずつ元気になりました。また合宿では、じゅんぴなどをやっているのと、

「ありがとう。」

といっぱい言われて、役に立てたんだなと思いました。

人を思いやる言葉や行動で、ぼく自身はげまされました。これからも人を思いやる気持ちを大切にしていきたいです。